

まちづくり夢再発進



握手を交わす杉木支社長と松井市長



地元は鐵路復活を願い、可部—旧河戸間に残るツールにキャンドルを飾るなど「ヒール」を掛けた
(2012年9月15日)

鉄路復活

可部線電化延伸

「電化延伸は沿線地域の活性化につながる。」この日、市役所でJR西日本広島支社の杉木孝行支社長と会話を交わした。

廃線敷に植栽

鉄路復活の知らせに地元は沸いた。「懇願がかなった。復活を信じてまちづくりに取り組んできた成果」。1だ。沿線住民は、鉄路の期待感を語つた杉木支社長も「地域の交通ネットワーク強化・貢献できる」と話した。松井市長と握手を交わした。



JR可部線の可部—旧河戸間（広島市安佐北区）の2010年春の復活を4日、市とJR西日本広島支社が発表した。JRが廃止路線を復活させる全国初のケース。長年にわたり電化延伸を要望し続けた地元の取り組みや事業化の背景などを追い、鉄路復活する地域の展望と課題を探る。1面連載。

（有岡英俊）

市と地元連携実る

見した松井一夫市長は904年から要望活動の母体となつた「可部駅・河戸駅間電化促進期成同盟会」元会長の平盛義範さん（86）は喜びをかみしめた。可部—三段峡間の廃止以降も廃線敷に花木の植栽を続けた。先進の大坂間を超える計67地帯に田向き、枕木オーナー制なら鉄道を生かしたままづくりを学んだ。過疎化などによる利用者の減少を背景に、地方で鉄道会社の経営が悪化する。

こうした中の鉄路復活。市は利便性の向上や再開発に伴う利用者増も追い風となつた。可部の11年度の全線の利用者は87.8万人（横川駅を除く）。可部—三段峡間が廃止された03年度比で13.2万人増えた。駅周辺への大型商業施設の出店や再開発に伴う利用者増も追い風となつた。

期成同盟会は、市とスクラムを組んで事業化に向けた活動を展開した。05年6月から毎月1回、市の担当者と連絡会を開催。市の交通政策を学び、地元のまちづくりの取り組みを紹介するなど情報交換を重ねた。

得して歩いた。

河戸自治会の住木勝彦会長（70）は「地元の熱意が冷めてはいけない。駅の清掃や周辺の防犯対策など、地域としての鉄道と向き合ふべきだ。これが本当にスタート」と述べた。松井市長は「人口や店舗が増え、地域の経済活動が活発化されるための基盤整備」と位置づける。杉木支社長も「人口の過疎地域で可部線は乗車人員が見保つながる利用が見込める」と事業化への理由を説明する。

可部線の利用者が増加された03年度比で13.2万人増えた。駅周辺への大型商業施設の出店や再開発に伴う利用者増も追い風となつた。可部の11年度の全線の利用者は87.8万人（横川駅を除く）。可部—三段峡間が廃止された03年度比で13.2万人増えた。駅周辺への大型商業施設の出店や再開発に伴う利用者増も追い風となつた。

期成同盟会は、市とスクラムを組んで事業化に向けた活動を展開した。05年6月から毎月1回、市の担当者と連絡会を開催。市の交通政策を学び、地元のまちづくりの取り組みを紹介するなど情報交換を重ねた。

河戸自治会の住木勝彦会長（70）は「地元の熱意が冷めてはいけない。駅の清掃や周辺の防犯対策など、地域としての鉄道と向き合ふべきだ。これが本当にスタート」と述べた。



買い物袋を掲げたお年寄りが、急な坂道を歩いて上る。広島市安佐北区の福王寺団地は、JR可部線可部一旧河戸町(広島市安佐北区)の北側を並走する国道191号沿いの斜面に広がる。

1972年に山を切り開いて開発された。70年代、沿線では团地開発に伴い市街地化が進んだ。可部一旧河戸町(広島市安佐北区)の福王寺団地は、JR可部線可部一旧河戸町(広島市安佐北区)の北側を並走する国道191号沿いの斜面に広がる。

利用促進住民が決意

戸周辺の人口は20万、地元町内会の浜田団新的組織を設立の自治会役員たちも加入。長(70)は「お年88歳。可部一三段寄りは坂道を上り下りけん引してきた」可部88歳が廢止された03年11月に比べて1344人増えた。開発から時を経た團地を中心へ、高齢化が進む。福王寺団地は現在782人が

手段の確保が喫緊の課題となっている。

JR可部線利用促進会議を結成。沿

行して開発された。開発から時を経た團地を中心へ、高齢化が進む。福王寺団地は現在782人が

鉄路復活

可部線電化延伸

守る

国道のバス停からは徒歩で30分。ほとんどどの住民が車を利用す

るといふ。自家まで徒歩で30分の日は迫久登さん(80)は「いつまで運転できるか」と不安

暮らし、高齢化率は7

歩く・1%に上る。

70年代、沿線では团地開発に伴い市街地化が進んだ。可部一旧河戸町(広島市安佐北区)の福王寺団地は、JR可部線可部一旧河戸町(広島市安佐北区)の北側を並走する国道191号沿いの斜面に広がる。

駅と団地結ぶ移動手段課題



乗り合いタクシー導入に向け、福王寺団地の住民から聞き取りをする同盟会の大畠正彦会長。(右から2人目)

忠に周辺の團地や病院などをつなぎ乗り合っている。

タクシーの導入と、より広域の利用者を見据えたパークアンドライド用駐車場の確保だ。

福王寺団地は、市の担当者を招いて乗り合いタクシーの勉強会を開催。他地域の事例や、国が赤字の半額を補助する制度などを学ん

だ。きめ細かに可部線の利用ニーズを把握するため、アンケートを実施しているのが、駅を起點に向けて聞き取りをえた。(有岡英樹)



鉄路復活

可部線電化延伸

踏切が問題に

車の長い列が3方向に延び、誘導員4人が目まぐるしく動いて駐車場に呼び込む。JR可部線中島—可部間（広島市安佐北区）の中間にある安佐市民病院。沿線は毎朝の光景である。「病院に入るまで40、50分かかることがある」。月に1度通院するという同区の上士井恒さん（78）はぼや

いため、遮断機が下りたまま車両から車両まで横切らなければならぬため、遮断機が下りたまま車両から車両まで横切らなければならぬと車の列が国道までつたがる。市は本年度中に建設地を決める予定。現在地区への移転新築を選択肢に含めたからだ。

拠点

病院建設含め将来像議論を

交通網充実どう生かす

可部地域の中心部を30年以上たる老朽化のため、建て替え議論の通る国道54号の朝夕タラ

ソシユ時は、南北に1・4才の渋滞ができる。1990年度から整備が進む可部バイ

商店街は低迷した。同組合の仁井孝尚副理事長（61）は「人

が集まる街から通過する街へ変わっていく。来ビショニンを描く議論

入2丁目—大林3丁目。国道54号や191号沿いの飲食店や商店の経済効果はどう

定。国土交通省広島国

でつくる可部新中央商

か」と不安感する。

草正教授（交通工学）

（有岡英俊）

鉄路復活バイパスは「鉄路復活をきっかけで交通網が整い、けに、生活利便性向上

病院の建て替えや市北の拠点で公共施設の再

開発が進む可部バイ

一方で、地域の中心が集まる街から通過す

ターン。地域全体の将

来ビショニンを描く議論

化策を明確にし、住民

たらど早期に地域戦略

鉄路復活や可部バイパス開通など交通網の整備が進む
(撮影・福井宏史)

